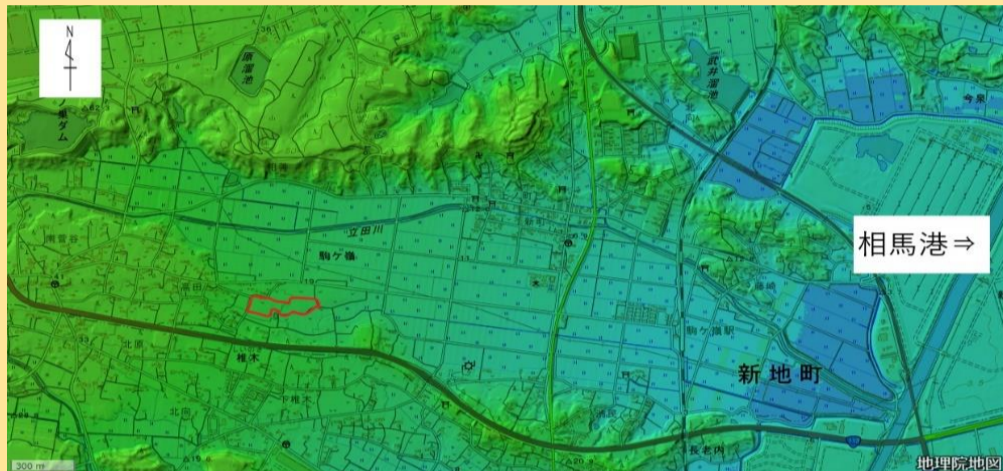


三貫地貝塚と泣く土面に関する一考察

福島県立相馬高等学校 郷土部

1. 三貫地貝塚の立地と自然

三貫地貝塚の西方に阿武隈山地の北端に位置する新地町のシンボル鹿狼山がそびえる。ここから東の海岸部にかけて低い段丘が伸び、東流する立子川の氾濫原が展開する。この段丘上に三貫地貝塚が形成された。扇状地的地形のため湧水も各所にみられ、縄文時代にあっても湧水を利用して集落を営んでいたことが推測される。また、現在の海岸線は国道6号をはさみ、遺跡とは4kmほど離れているが、縄文海進により遺跡の近くまで海が迫っていた。このように西に鹿狼山をはじめとする山々、東に海があることで海の幸、山の幸、水に恵まれた自然条件が、三貫地遺跡に住んだ縄文人の生活を豊かに支えていた。「聖なる山」として三貫地遺跡を含む現在の新地町周辺の縄文人の信仰の対象であったであろうことが推測される。このように、三貫地貝塚は、縄文人の生活や精神性をうかがい知ることのできる重要な遺跡である。



【三貫地貝塚の周辺地形図】



【三貫地貝塚から鹿狼山を望む】

←出土した多くの人骨頭部が、北西方向の鹿狼山を向けて埋葬されていた。



【注口土器】



【虫歯】

2. 発掘状況と出土品

福島県新地町の三貫地貝塚は、1924（大正13）年に東京帝国大学人類学教室が発掘調査を行い、今年100年目にあたる。1952（昭和27）年には日本考古学協会が発掘調査を実施した。この調査後に郷土クラブ員が土面を採集した。縄文時代研究の発展に寄与した重要な遺跡である。

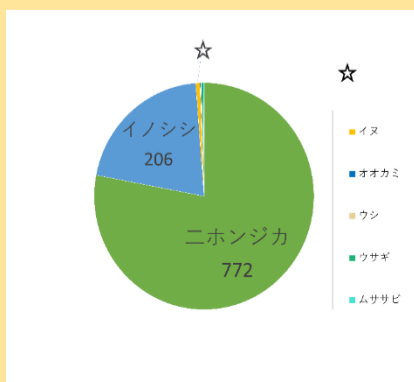
<出土品>

- 土器・骨角器・遮光器土偶・耳飾りや貝輪などの装身具
- 注口土器・土器片・縄文人の虫歯・獣骨（イヌ・シカ・イノシシなど）
- 人骨
 - ・1952年調査 総数：36体
(性別：男性17体・女性17体・男性？1体・女性？1体)
 - ・1954年調査 総数：37体
(性別：男性22体・女性11体・不明5体)

※矢じりが刺さった骨盤、日本最古の腫瘍の痕がある頭蓋骨が出土している。

魚類	貝類
ウナギ	アサリ
コングリダエ	ハマグリ
ハモ	シジミ
クロダエ	シオフキ
トラフグ、クサフグ	アカガイ
フナ	マガキ
スズキ	マテガイ
カスザメ	ホタテガイ

【出土した主な魚介類】



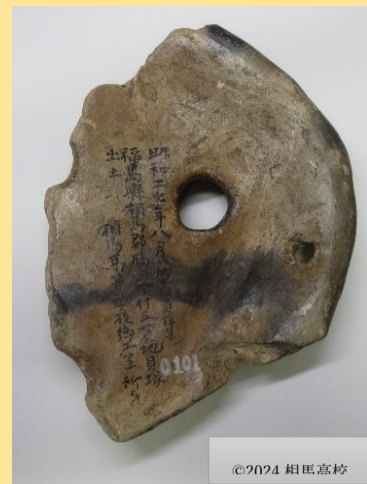
【出土した獣骨の個数】

3. 「泣く土面」に関する考察

- Q1. 右目の縦線は「涙」を表現しているものか？
- Q2. 土面の左半分が欠落しているのはなぜか？



【泣く土面】



【土面裏側】



【土面側面】

○土面の観察

- 観察1…縦長約18cm。横長約12cm。重量422g。
- 観察2…目と口が丸で表現されている。
- 観察3…眉をくっきりと浮き出させ縦に刻みを入れて眉毛を表現し、眼孔を囲むように耳まで眉毛がある。眼孔の上にはまつ毛の表現が見られる。
- 観察4…鼻根から鼻筋の真ん中に縦に線が入り、鼻翼には3本の横線が刻まれている。
- 観察5…右の目から縦に4本の線が直線で刻まれている。
- 観察6…土面の表面に磨きをかけているため、つるつとした触感である。

○考察

- 考察1…「泣く」行為を調べた中で、後世の「泣き女」の存在を知った。縄文時代に「泣き女」の存在を確認することはできないが、集落の中で人の死を悲しむ葬送の中で「泣く」ことが葬送儀礼化したのではないかと推測される。
- 考察2…土面の半分が欠落し、発見当時、周辺を探しても残り半分が見つからなかったことは、「シャーマニズム的儀礼として土面を祭祀に用いたのではないかと推測される。例)「ちちんぷいぷい、痛い痛い飛んでいけ」的な考えで、モデルになった人物が顔面に何らかの傷害を持っており、それを解消するため該当部分を破壊し集落から離れた場所に埋めたり川に流したりした。
- 考察3…観察1～4、さらに他の遺跡出土の土面と比較観察した結果、「涙」を流している表現ではなく、入れ墨を表した可能性が大きい。
- 考察4…紙粘土で土面を復元し、重さは軽くなったが、実際に装着したものを実証したところ、裏面が装着者の鼻にあたるため実際は両耳に開けた穴に紐を通して何かに掛けていたのではないかと推測される。

4. まとめ

考察1～4から、Q1・Q2の結論として次の結論を出した。

結論：「泣く土面」はシャーマニズム的儀礼か葬送儀礼に用いた。涙を流す入れ墨を表現したもので、土面の半分は、儀礼の際に意図的に半分を割ったものと推測する。

三貫地貝塚遺跡は、豊かな自然環境に支えられ2千年にわたり人々が定住してきた。三貫地貝塚は縄文人の生活様式を知る重要な手がかりとなる遺跡である。出土土面からは縄文人の信仰や精神性を知ることができる。

現在、三貫地貝塚は畑となって遺跡表示板があるのみだが、今後の課題として学校教育や生涯教育の場として利用し、地域の誇るべき歴史的遺産であることをさらに発信し、「縄文祭り」や「縄文の里」など地域の活性化につながる場としての活用を提言していきたい。

参考文献：福島県立博物館 1988 『三貫地貝塚』

土面・注口土器・虫歯は相馬高校所蔵